

# CUCM との統合用に CUSM を設定する

## 内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[設定](#)

[CUCM の設定](#)

[CUSM の設定](#)

[CUSMのCUCMを統合します](#)

[Gateways/CME SRSTを設定します](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

## 概要

このドキュメントでは、Cisco Unified Communications Manager ( CUCM ) 統合のSurvivable Remote Site Telephony Cisco Unified Survivable Manager ( CUSM ) を設定する方法について説明します。

## 前提条件

### 要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco Call Manager Express ( CME )
- CUCM
- CUSM
- SRST

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- 仮想化アプリケーションOVA OpenテンプレートからインストールされたCUSM
- CUCM バージョン 8.6 以降
- CME バージョン 8.6 以降

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

## 背景説明

CUSMの一部がSurvivable Remote Site Telephony（E-SRST）ソリューションを向上させたように動作します。

SRSTおよびE-SRSTソリューションは本社と支社間の通信を防止する一時的なWANの停止中にリモート ブランチ サイトの電話機能を提供します。

## 設定

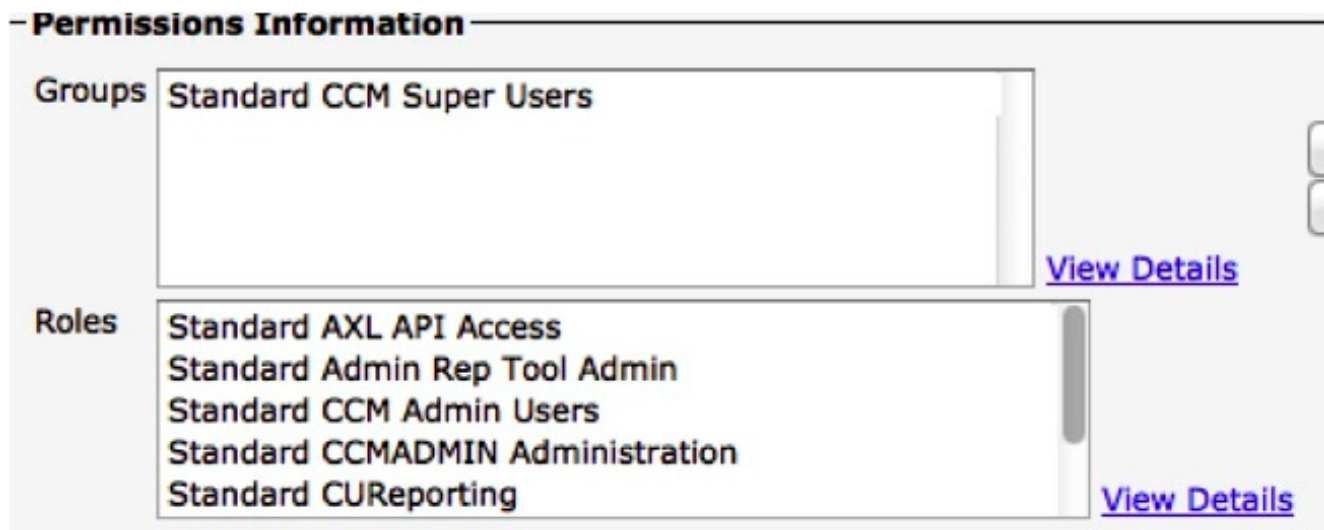
ここでは、CUCMとの統合に関するCUSMおよび関連コンポーネントを設定する方法を説明します。

注：このセクションで使用されるコマンドの詳細については、Command Lookup Tool（登録ユーザ専用）を使用してください。

### CUCM の設定

CUSM と統合するために CUSM を設定するには、次の手順を実行します。

1. CUCMにログインします。
2. アプリケーション ユーザを作成し、Standard AXL API Accessの役割の割り当て:



3. CUCMが完全修飾ドメイン名 ( FQDN)で定義されているかどうかを確認するには、`show network eth0`コマンドを入力します ( CCMpub.cisco.comなど)。CUCMサーバはFQDNで定義する必要があります。
4. CUCMに指定されたドメイン ネーム システム ( DNS ) サーバが転送、反転CUCMのホスト名が設定されている参照またはIPアドレスが割り当てられていることを確認します。そうでなければ、CUSMの統合は失敗します。
5. CUSMがデバイス プールを検索し、関連するサイトにできるSRST参照先を適切にプロビジョニングするCUCMのデバイス プールを設定します。

## CUSM の設定

CUSM を設定するには、次の手順に従います。

1. CUSMのセットアップ ウィザードへ移動し、グローバルManager SRSTの設定を定義します：  
  
ボイスメール パイロットの設定の設定を定義し、*Next*をクリックします。  
  
Transport Layer Security ( TLS ) を介してSRST Managerおよび支社サイトのルータを統合するServiceを選択し完了かをクリックします。
2. システム>ドメイン ネーム システムの設定に移動します。
3. DNS サーバを追加します。注：DNSがCUCMサーバのホスト名またはIPアドレスの逆エンタリを持つことを確認します。
4. SRST Managerのホスト名とドメインを追加します。
5. [Apply] をクリックします。



6. Network Time Protocol ( NTP ) を設定します。注：この手順は、変更後に統合できるため、現時点ではオプションです。
7. [TLS ( トランスポート レイヤ セキュリティ ) 証明書を信頼します。
8. CUCMからCUSMにtomcat.pemまたはtomcat.der証明書をコピーし、Administrative XML Layer(AXL)経由で2つを正常に統合します。 TLS証明書はCUCMから直接コピー アンド ペーストすることも、CUCMからファイルをダウンロードし、CUSMに手動でアップロードできます。注：証明書コピー/貼り付け、tomcat.pem証明書を使用します。証明書を手動でアップロードする場合は、tomcat.der証明書を使用します。
9. 証明書に正しいCommon Name ( CN ) があることを確認してください。>このアドレスはホスト名とドメイン名を含める必要があります:

/3

number: 127809005064370013863405886106352779711

Algorithm: SHA1withRSA (1.2.840.113549.1.1.5)

name: L=bgl, ST=bgl, CN=nipccucm9.cisco.com, OU=tac, O=tac, C=IN

validity: Wed Jul 31 00:20:11 IST 2013

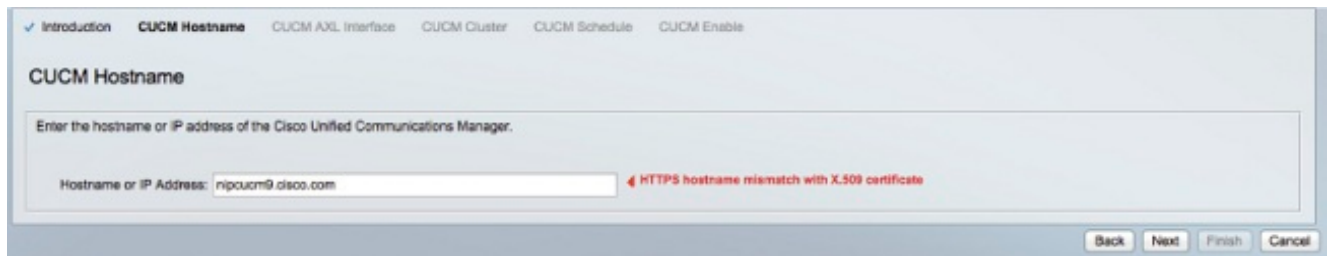
Mon Jul 30 00:20:10 IST 2018

name: L=bgl, ST=bgl, CN=nipccucm9.cisco.com, OU=tac, O=tac, C=IN  
(1.2.840.113549.1.1.1)

serial:

0282010100bdf4fc21a281fb403fed91d1abe736e8deebfa6c291ab857d5c1d9162701  
1cd25fef0199470ebff9d72046d977d6d859686798e1ffd679b229e240cd7192da0a2  
3c30df21ce95b07d176b66878eba8b241343cf0c6c35834af0b3f991d343ec3aeaaaa  
0559289cb754065b26684b3e43bf19dcb90f4d0ceb647914e78de3906a7bba20a88  
1f3b85293e32c26730318bee1468251a42ec85c5ab6e4ec5900f0ff109430ad90335f1  
9c5d4b22abd5ef1c557126dffdb9c4776217a4550a5461ef46efcdb165a5b1b030bc6  
0af5ab9ed0203010001

CNはホスト名とドメイン名を反映する、次のエラーが発生します:



## CUSMのCUCMを統合します

CUSMのCUCMを統合するには、次の手順を実行してください:

1. CUSMから、[中央コール エージェントを設定し、選択します。
2. CUCM サーバのホスト名/IP アドレスを入力します
3. CUCM で作成したアプリケーション ユーザのユーザ名とパスワードを入力します。
4. CUCM クラスタの情報を入力します。注：パブリッシャとサブスクライバ サーバをこの時点で追加するオプションもあります。
5. 設定変更または更新のAXLによってCUCMをポーリングするCUSMに従ってスケジュールを設定します。
6. CUCM を有効にします。

注：パブリッシャとサブスクライバ サーバを追加できますがCUSMは2つのサーバを使用して、キープアライブを交換しません。これは力強くSRST参照先を検索するか、CUSMで設定されたタイム スケジュールは、CUCMとの要求時にサーバに接続しようとします。

## Gateways/CME SRSTを設定します

CUSMには、次のようなサイトのプロビジョニング機能があります。

- E-SRST
- SRSTのみ(call-manager-fallback)
- カスタマイズされたテンプレートの設定

SRSTゲートウェイ/CMEを設定するには、次の手順を実行します。

1. サーバ ( IP HTTPサーバ ) として機能するために、HTTPのゲートウェイを有効にします。
2. Telnetまたはセキュアシェル(SSH)を設定します。

注：ゲートウェイとCUSMの間でTLSを使用する場合は、SSHを設定する必要があります。

CUSMは、サイトのプロビジョニング選択 ( SRSTのみ、E-SRST、またはカスタマイズされたテンプレートに基づく ) に基づいて、残りの設定を完了します。

## 確認

現在、この設定に使用できる確認手順はありません。

## トラブルシューティング

現在、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。